

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 63 号

平成24年3月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会（北里大学
海洋生命科学部同窓会）

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次／相模原校舍風景等 P. 1

相模原ミニ水族館 P. 2

三水会同窓会報第63号に寄せて／三陸港まつり P. 3

崎浜公益会 P. 4

就職ガイダンス／三陸ボランティア P. 5

潜水ボランティア報告書 P. 6

潜水部OB会／漁火祭報告 P. 7

活動報告（エコックス）・平成24年度三水会定期総会案内 P. 8



北里大学ミニ水族館

北里アクアリウムラボ

三宅 裕志 講師

2011年3月11日、未曾有の大地震、そして大津波が三陸沿岸を襲った。地震のために三陸キャンパスの校舎は使用不可能となり、教育はもちろん、学生達の生活の基盤もなくなってしまう。

震災直後から大学本部および三水会の皆さんの絶大なるご協力のおかげで学生達を迅速に被災地から避難させ、そして5月から相模原キャンパスでの新年度をスタートすることが出来ました。ここで厚く御礼申し上げたいと思います。

当学部は2010年度から「海洋生物の調和的利用に優れた職業人の育成」の取組として平成22年度文部科学省「大学の就業力育成支援事業」に選定されました。当学部には水族館への就職希望者も多いことから、この事業の一環として、大学にミニ水族館を

作り、その運営を通じた就業力育成を行っていきますので、その様子をお伝えしたいと思います。

震災前にはF2号館3階に水族館を作る予定でした。相模原に移転し水族館はどうなるかと心配していましたが、7月23、24日に相模原キャンパスにてオープンキャンパスがあるということで、23日をミニ水族館のオープン日と決めました。オープンに先駆ける1ヶ月前、3、4年生で学芸員実習を履修している学生からミニ水族館のスタッフの募集をおこなうと、30名ほどの学生が集まりました。

相模原キャンパスで新たにスタートした海洋生命科学部ですが、学生達は三陸の自然に親しみ、三陸の人々と深く関わって生活してきたので、いきなりの無機質な都会暮らしに気が抜けたような感じもありました。そんな学生達を見ているとやはり当学部の学生には、水圏の生物に囲まれる生活が必要なのかなと感じていました。しかし、水族館スタッフに希望してきた学生達の眼は輝いてお

り、学部のミニ水族館を作るという意気込みを感じました。

この水族館はすべて学生が企画し、運営するというところが重要です。なぜ、この相模原キャンパスにこの水族館があるのか？どうこの水族館の強みを出すのか？どうやると観客を満足させることができるのか？などじっくりと考えさせました。そしてそのために何が必要で、どう展示し、どう運営していけば良いのかも考えさせていきました。学生達は海から遠い相模原という不利な環境にもかかわらず、試行錯誤して少しずつ形にしてゆき、ミニ水族館の名称を「北里アクアリウムラボ」とし、ロゴもデザインして、23日のオープンにこぎ着けました。

オープンキャンパスでは、たくさんのお客様が来られて、その満足度が高いのほかに高かったように、学生達は水族館を作り上げた達成感に包まれていたようです。7月23日のオープンキャンパスはスタートで、そのあとも自ら考え展示を改良してゆき、まだまだ進化中です。

オープン後は水族館に勤めている卒業生も応援に駆けつけてくれました。また、水族館プロデューサーの中村元さんも来館され、学生が自由に創造していける水族館

を褒めて下さいました。さらにはいろいろなメディアにも取り上げられ、水族館を運営している責任感や充実感を感じているようです。

2012年3月は震災1年後となります。これを期に新江ノ島水族館の3月の1ヶ月間のテーマ企画として、「三陸の春、東北のいきものたち」の企画展示を行います。すべて企画内容は当水族館の学生が考えた物です。またこの企画に合わせて北里アクアリウムラボでも三陸の春の展示を行なっていますので、ぜひ両水族館にお越し下さい。

最後に、北里アクアリウムラボのオープン前には生物の調達などで、全国各地の様々な水族館にお世話になりました。また水槽や海水の提供など新江ノ島水族館には多大なご協力をいただいております。ここで厚く御礼申し上げます。



「三水会同窓会報第六十二号に寄せて」

越喜来漁協代表理事組合長 中嶋 久吉



謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

あの大震災から、早十か月を数えようとしておりますが、北里大学海洋生命科学部三水会員の皆様から多大の義捐金を始め数々のご高配を賜り、誠に有難うございました。また、現職、OBの諸先生、学生の皆様方からボランティア活動等々のご支援や励ましのお言葉に対し、深甚なる敬意と感謝御礼を申し上げます。

住めば都と言いますが三水会の皆様方が共に慣れ親しんで来られたであろう越喜来の浦浜、崎浜のメイン地域の街並みは見る影もなく、今は更地に変貌してしまいました。

ここで当漁協の近況をお伝えいたします。現在、商工会議所三陸支所を仮事務所とし、業務推進を図っております。さて、津波被害の概要ですが、固定資産損失額は二億八千六百万円、わかめを始めたとする各養殖漁業施設の被害額は五億五十万円、同養殖生産物は四億三千九百四十万円、さけ稚魚四百九十万尾の概算被害額八百三十万円、漁船は登録船隻の約七割相当の四百九十五隻が流失損壊し、損害額は約十億円で被害概算総額は約二十二億三千五百万円に上る極めて甚大且、未曾有の被害を蒙り、定置網は二ヶ統の内一ヶ統の操業しかできませんが、秋さけ漁は津波被害に追い打ちが掛るこれまた未曾有の大不漁に見舞われてしまいました。この他三陸の三漁協で運営するあわび種苗センターの放流稚貝、養殖貝の損害額は約二億円が見込まれるところで。

十二月末復旧船は七十二隻、新造船は二十一隻で九十三隻が一応整ったところです。養殖漁業の復興状況は、わかめ施設約三万平米余

りの張立てと、種苗巻き付けが完了の処で、今春水揚げ予想量は約三百トンの見込みですが、ボイル加工ができる状況下ではありません。また、各養殖漁業（わかめ、ほたて、かき、ホヤ）の行使予定者数の動向は、震災前に比較し、約三割弱減少が見込まれます。この様な状況下、各養殖漁業の推進方策は、当面協業化の生産体制を以て対応する事といたしております。

わかめ種苗生産に当たっては、小河先生に大変なご苦労とご貢献をいただきましたが、三陸キャンパスの内外水槽実験室等に揚水するポンプが破損のため揚水が不可で、トラックで海水を搬送する最悪の作業条件等々から良好な種苗生産に至らなかったことは残念の限りでした。この様な惨状の中ですが、当組合の復興構想は三・三・四の十ヶ年構想計画を樹立のところであり、今後一層のご指導を願って止まない次第です。

結びに、北里大学海洋生命科学部の益々のご発展並びに三水会員の皆様方のご隆盛と併せ三陸キャンパスの早期再開が図られることと、吾が故郷の一日も早い復興の槌音が鳴り響くことを急じつつペンを置きます。

第37回「三陸港まつり」

実施のご報告と御礼

三陸港まつり実行委員会
実行委員長 古水 力

三水会の皆様方には多大のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。皆様の温かいご支援により「三陸港まつり」の継続開催と被災芸能団体の早期復活を実現していただきましたが、その概略をご報告申し上げます。

地域住民の夏の楽しみである「三陸港まつり」は、昭和48年8月21日、越喜来漁港で行われた「越喜来流灯会」が始まりで、翌年から「三陸港まつり」とタイトルを変えて今日に至ります。盆踊り、奉納相撲など夏の行事が消えていく中で「三陸港まつり」は、帰省客を交え世代間交流を深める越喜来の一大イベントです。

「東日本大震災」から5か月後の8月16日、第37回「三陸港まつり」が開催されました。

午後5時、例年どおり地元、円満寺境内での芸能奉納で幕開けし、寺院からまつり会場の三陸公民館駐車場まで獅子躍が太鼓を叩いて先導しての一千人近い灯籠行列。

会場には、東京の篠笛奏者 福原幸三郎氏が奏でる童謡が流れ

400個の灯籠が中央ステージに飾られていきました。

熊本県水俣市の愛林館から贈られた3月11日にちなんだ311個の送り火がともされ、浦浜念仏剣舞と浦浜獅子躍によります大震災犠牲者、戦争犠牲者、各家先祖、海難事故者、魚介類各霊の供養がしめやかに行われました。

まつりの開会式には、高橋明義三水会会長、西尾徹同副会長にもご臨席いただき、ご祝辞と励ましの言葉を頂戴して、元気づけられました。

宮城県大崎市若松煙火製造所提供の鎮魂と激励花火が夜空に輝きました。

芸能共演では浦浜念仏剣舞、浦浜獅子躍、立根町の川原鎧剣舞に



加え、北上市の黒岩鬼剣舞と遠方から駆けつけてくれた東京都三宅島の木遣太鼓の支援をうけ、手拍子や掛け声高く大きく盛り上がり嘗てない祭典となりました。

多くの尊い人命と財産、暮らしを一瞬にして呑み込んだ大震災。大自然の脅威におののきながら諦めていた「港まつり」が見事に甦り、越喜来住民に復興に向けて立ちあがる勇氣と元気を与えるものとなったことは云うまでもありません。

また、浦浜剣舞、浦浜獅子躍、崎浜剣舞、浦嶺獅子舞など被災芸能団体への復活支援金として活用させていただき、装束・道具類の整備が大きく前進できました。これも偏に三水会の皆様の温かいご支援の賜と深く感謝申し上げます。

ふるさと三陸・越喜来の伝統文化を守りながら復興への後押しをしていく決意でありますので、三水会の皆様にはこれからもご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。

最後になりましたが、三水会のさらなるご発展と会員各位のご多幸、ご活躍を心からお祈り申し上げます、ご報告と御礼の挨拶と致します。有難うございました。

「感謝を込めて」

社団法人崎浜公益会
会長 遠藤 喜隆

堤防を越えた波濤が自分の家を易々と壊していく有様を、「あー！」と声を発するのみで、ただ眺めることしかできなかつた。それでも何故か分かんが、恐怖心というものはなかつたな、と多くの人が言います。

祖先が、生き替わり死に替わり営々と築き上げてきたものが瞬間に消え去る光景はまさに悪夢そのものでした。一体これは何なんだ、と誰しもが思ったことと思います。朝起きたら元通りの姿になっっているはずだと何度も思い、朝を迎える度にその変わり果てた無残な状況を目の当たりにすると、「ああ、これは現実なんだ」と、自ら納得させることしかありませんでした。

いつの日か津波は必ずやって来る、と自身では思っておりません。来てほしいぜい堤防を少し超えるくらいだろう、などと高を括っておりませんでした。まさか自分が生きているうちに、その安易な考えを嘲笑うがごとき津浪に遭うとは…。己の慢心と愚かさ、只々呆れるばかりです。

公民館に対策本部を設置しまし

たものの、一体何から手を付けたら良いのか分からず右往左往するばかりで、今思えば公民館に詰めていた数ヶ月間、実のあることをしたのだろうかと反省するばかりです。

震災直後の混沌とした中「三年間お世話になった者です。何かお役に立てればと思つて来ました。」と車一杯にいろいろな生活必需品を積み込み、はるか遠くから訪れて来た水産学部卒業生。ガソリンを入れるにも難儀した時期、見知らぬ人に何度頭を下げたことか。青春の一時を過ごした地を案ずる思いを綴つた数々のお見舞いの手紙。それらを思い出すたび、内からこみ上げる熱いものを止める事ができません。深く深く感謝申し上げます。

大学からは、必要なものは何でも使つていいです！と力強いお言葉を戴き、それに甘え数々のご支援を頂戴しました。ことにも発電機の拝借は通信手段の途切れた崎浜には無くてはならぬ貴重な宝物でございました。本当にありがとうございました。

さらに三水会様には、公益会に対する支援を無心したところ、会長自ら崎浜にお出で下さりましたこと、その不躰な申し出に貴会が快諾下されましたことに、地区民

を代表して深甚なる謝意を申し上げます。昨年六月に「横浜地区復興会議」を立ち上げ、地区の復興ため議論を重ねております。この先何年かかるかまだ見通しはつきませんが、「地を往きて走らず、企てて草卒ならず、ついにその成すべきをなす」という決意のもと邁進する所存です。

近い日に、生まれ変わった横浜の地で、また皆様方とお会いできる日を心待ちにしております。三水会の皆様方が社会で益々活躍されますことを願いながら、御礼のことばに代えさせて頂きます。

「三水会主催の就職ガイダンスに参加させて頂いて」

株NTTデータ
水産食品学科28期生
安孫子 信吾

去る11月9日に相模原キャンパスで開催された3年生向けの就職ガイダンスに講師として参加させて頂き、自らの体験を振り返りながら就職活動についてのお話をさせて頂いた。同様の就職ガイダンスは、例年複数回開催されているので、今回は、FA22期 笹本和茂さん（社）マリノフオーラ

ム21、FA23期 北吉直子さん（学）神戸学園と私の3人で講師を務めさせて頂いた。

日本経済が冷え込む最中、昨年は私達卒業生も大変お世話になった三陸が被災する大震災が発生し、今年の就職活動は例年以上の厳しさが予想される。また、ガイダンス前の控え室で水産学部先輩である朝日田教授より「学生に緊張感を与えるような話をして欲しい」とのお話もあり、志望する企業から内定を得ることがいかに困難なことかを中心にお話をさせて頂いた。どの学生も真剣な眼差しで聞いてくださり、何人かの学生はガイダンス終了後に、講師3人に直接質問をしに集まってくれ、朝日田先生の期待に応えられたと思うと共に、是非、学生諸君に講師3人の話が少しでも役立てばと思う。

さて、本ガイダンスへは昨年度に続き2回目の参加となるが、今年も昨年以上に出席する学生の少なさが目に付いた。ざっと数えて50名程度だろうか。昨年は80名程度で、事前に学生課に印刷をお願いした資料の余りが気になったが、今年も空席の多さが気になった。在学当時のそれを思い出しでも出席者数の少なさは異常かと思う。ガイダンスが夕方に設定されてお

り、学生諸君におかれては、学業だけでなく、クラブ活動にアルバイト、交友と多忙なのは理解できない就職活動に対する大学3年生の姿勢としては今回の参加者の少なさは、学生課、就職課の先生の苦労が目に見えると共に、学生の意識の低さに少し寂しい気がする。

一方で、卒業生としてお世話になった母校に対する恩返しとして、後輩の就職活動の支援は何も本ガイダンスの講師に限らないと思っている。就職活動に強い多くの大学、学部がそうであるように、卒業生自身が社会で輝くことで、後輩が後に続く足掛かりになると考える。今年で大学卒業、就職後ちょうど10年の節目となるが、より一層、北里水産のOBとして社会にプレゼンスを示せるよう、日々業務に励みたい。

この度は、貴重な機会を与えて下さった三水会に感謝し、学生の明るい未来に期待したい。

『3・11東北津波大震災ボランティア活動報告』

水産増殖学科2期生 畠中 律
鍼灸按摩師

38年前、素晴らしい天然の溪流

と海に囲まれた三陸での学生生活に憧れて三陸駅前の田中アパートの第一期生となりました。卒業後も吉浜川を中心に秘密の小溪流を尋ね巡っておりました。しかるに『昨年の3・11東北津波大震災』以来、5月8月9月と一週間ずつ休みを取って、釣り針を鍼灸按摩に置き換えて、被災地ボランティア活動を行っております。活動範囲は、宮城県塩釜市浦戸諸島、岩手県気仙郡住田町、大船渡市三陸町越喜来です。（今年相棒と2人で約200名の方を治療させて頂きました。）

住田町の仮設住宅は、中上団地（63棟190名）、本町団地（17棟50名）、火石団地（13棟40名）で、内訳は陸前高田市8割、大船



左：著者と杉下仮設住宅の方々

渡市2割、大槌・釜石市若干名の方々がお住まいです。大船渡市三陸町越喜来は杉下仮設住宅（84棟250名）です。

杉下仮設住宅では学生時代にお世話になった田中アパートの大家さん、田中ハマ子さんと長男の聖一・あち子御夫妻と感激の対面になりました。事前に私と相棒と2人で伺います、と伝えてありましたが、ハマ子さんが気を効かせて（?!）20人分の大きな手作り饅頭を用意されており、全部戴きました。その晩はビールが腹に入りませんでした。

活動中は新設の大きな集会所を借り切って、宿泊もさせて戴きました。（台所、トイレ、大きな風呂！冷蔵庫にはなんとビールがギッシリ冷えています！）仮設住宅の総責任者をされている鈴木健悦氏（獣医学部卒の大先輩）には、何から何までお世話になりました。

住田町の多田欽一町長を表敬訪問の際に「来年もよろしく頼みます。」と約束しました。今年も5月8月9月とボランティアに行かせて戴きます。第二の故郷、三陸への恩返し但至少でも出来ることをありがたいとつくづく感じていきます。杉下仮設住宅での去年最後の活動が終わった9月23（金）の日誌から・・・

9/23（金）

絵に描いたような台風一過、晴れ渡る杉下仮設住宅を後にして山を下ると、眼前に越喜来湾が広がってきます。太古の昔から、さもありなむと言う風に、ガレキ以外に邪魔のない大いなる姿を晒してくれていました。越喜来湾に注ぐ浦浜川にはガレキ撤去のダンブが行き交う中、尺を超える大きなマスが、しきりに上流へ向かって遊泳しています。サクラマス？いや銀ザケの海洋飼育の網を破り逃げ出したものかも分かりません。壊れたものは人工のもの、海と山と空気は何も無かったかのように昔と同じに車窓を流れている様でした。



潜水ボランティア報告書

海洋生命科学部3年
中里 翔

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北沿岸だけでなく、日本全土に影響を及ぼす大きな震災となりました。岩手県大船渡市三陸町に拠点を置いていた北里大学海洋生命科学部もまた、キャンパス移転により同地を離れることとなりました。

その一方で、海洋生命科学部の学生たちは夏季休業や連休を利用して、三陸の復興の一助となるため、アワビなどの資源調査や、海底清掃などのボランティア活動を行ってきました。今回は2011年8月20日、10月8日、11月23日に同市三陸町越喜来の崎浜漁港で行われた海底清掃ボランティア活動について報告させていただきます。



今回のボランティア活動には、朝日田先生をはじめとする北里大学海洋生命科学部体育会所属の潜水部、同部のOB・OGの方々を中心に、岩手県庁ダイビングクラブ

「シーモンキーダイバーズ」の方々や、「三陸ボランティアダイバーズ」の方々、越喜来漁業協同組合の方々にも参加していただきました。他にも様々な関係者の方々の協力により、今回のボランティアを実現することが出来ました。

ボランティア活動を行うにあたり、まず参加者全員でミーティングを行い、当日の作業工程やダイビングプラン、危険要素等の確認を行いました。今回の活動では、「メンバーを大きく「潜水部隊」と「陸上部隊」の2つに分け作業を行いました。

「潜水部隊」は、海底のがれきにワイヤーを固定する作業やがれきを直接水面まで運搬する作業を中心に、湾内や沖に出て作業を行いました。

「陸上部隊」は、漁協の方と一緒に潜水班ががれきに固定したワイヤーを陸まで引き上げる作業や作業から戻ってきたダイバーへのサポートを行いました。

作業の中で回収されたものの中には、テレビやラジカセ、お皿や衣服など生活感のある物が多く含まれていました。それらを回収する度に、三陸の海は地元の方々や私たち学生を育んでくれた場所であると共に、私たちの大切なもの

を奪い、大きな傷を残した場所でもあるということを改めて感じました。

そして海底にはまだ多くのがれきが残っており、今後も継続的な活動と支援が必要であると強く感じました。私たちは現在、三陸から離れ相模原に居ますが、今後も、私たちが育ててくれた三陸への感謝の気持ちを忘れずに支援活動を継続的に続けていきたいと思っています。

潜水部OBの集い

水産学研究科修士2年
小泉 龍郎

2011年10月23日に潜水部OBの集いが秋葉原で開催されました。

私たち現役生は4名で参加してきました。今年は十数名のOBの方々が参加されていて、中には井田先生や1期生の方、八丈島からも先輩がいらっしやいました。

集いでは現役生が潜水部の現状と活動報告を、朝日田先生が三陸や大学の状況を報告しました。ご存じの通り3月11日の東日本大震災を受け、海洋生命科学部は相模原へと移転しました。潜水部も「場所が遠い」、「移動手段が少ない」



など厳しい状況の中で3年生が中心となって一生懸命活動を行っています。また、潜水部が三陸復興のためにできることとして、現地での資源調査や海底清掃もおこなっています。しかし、現実的な問題として、活動にかかる金銭面の負担が大きくなっています。そのことを知ったOB・OGの方々によって「潜水部支援金」が潜水部に集められ、今回の集いで賜りました。このお金は潜水部での活動やボランティア等で大切に使用させていただきたいと思っています。

お酒の席では、先輩方の三陸や潜水部への想いを聞かせていただきました。何代もの潜水部員が同じ場所で活動を続け、その場所について語り合えるというのはなかなか不思議な感じでした。でも、やはり私たちは、三陸という場所があったからこそ「潜水部」なんだなと心から思いました。再び三陸での活動ができることを願って頑張っていきたいと思えます。

また、来年お会いできることを楽しみにしています。

漁火祭報告

海洋生命科学部3年
漁火委員会委員長 石川 舜

暦の上ではもう春とはいえども厳しい寒さが続いています。三水会の皆様には日頃よりご支援・ご指導いただき大変感謝しております。ここに第49回北里祭における漁火祭ブース出店のご報告をさせていただきます。

さて、既に皆様をご存じの通り昨年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震を始めとする東日本大震災において震源からほど近い岩手県大船渡市にキャンパスをかまえていた我々海洋生命科学部では、国内でも異例の同学部全体を対象としたキャンパス移動が行われました。当初は大学祭のようなイベントごと全般への参加にやさかなながら抵抗感を持っておりましたが、仲間達と協議した末に「被災した我々が元気に活動していることこそが三陸の人々の勇気・元気につながるのではないか」という結論にいたり、ブースという形でこの度の北里祭への出店に至りました。

当日は海産物の炭火焼や透明骨格標本展示、タッチプールを始めとした海洋生命科学部らしさを全面に押し出した企画で来場してい



ただいた皆様が大変ご好評いただきました。特に炭火焼では2日目がいにくの雨天であったにもかかわらず両日共に終始長蛇の列が絶えないほどでした。来場いただいた方の中には「今日はこれを買うために来たんですよ」と言ってもどこかへ飛んで行ってしまいうでした。

なお、本ブースにおける純利益及びご寄付いただいたお金は全て震災からの早期復興に役立てていただくために岩手県庁へ義捐金として寄付させていただきました。

最後に、形は違えども「漁火魂」を受け継いでくれた後輩達のさらなる飛躍を願い報告を終わらせていただきます。

越喜来地域復興支援活動報告

海洋生命科学部3年
阿部 達哉

はじめまして、ボランティア団体「eColKus」総務の阿部達哉と申します。三水会の皆様におかれましては日頃よりの暖かい御支援をいただき、感謝致しております。

さて、この度、我々 eColKus が昨年8月に三水会様の御支援を受け、北里大学文化会「あしたのぼの会 HODOS・11」様と共同で行なった、越喜来地域での活動報告をさせていただきます。

当団体の構成や活動経歴に関してはHPを、また、「あしたのぼの会」様に関しては北里大学HPの「北里会団体紹介」を御覧下さい。

さて、我々は昨年8月11〜17日の一週間にわたり、越喜来地域で行われた「LIGHT UP NIPPON」や「Okirai Summer 2011」、「三陸港まつり」の会場警備や運営支援と並行して、震災以来休止しておりました「フリースクール」を上浦嶺消防団屯所と崎浜コミュニティセンターの2会場で行いました。

それぞれの会場が、あの震災の直後とは思えぬ賑わいを見せ、来場された方は出店やステージを

大変楽しんでおられました。また、締めくくりには、まだ瓦礫の残る越喜来の夜空に犠牲となった方々への追悼と、復興への思いが込められた火花が咲き、催しは大成功に終わりました。

フリースクールでは、震災以前より我々の活動に参加してくれていた子ども達との再会を果たすことができました。彼らが夏休みの宿題を進めるのを見守る傍らで、現在の学校生活や今後の進学に関する話題を聴き、親族や友人を失った悲しみや苦しみを抱えながら、新しい環境で自分の目標に向かい頑張ろうという気持ちも分かち合うことができたと感じております。

今回の活動は、岡野伸行様をはじめとした三水会の皆様の御支援の賜物であり、学生にとって大変有意義な経験になりました。学生一同を代表致しまして、ここに御礼を申し上げます。

被災地の一日も早い復興を学生一同心から願ひ、終わりにかえさせていただきます。



“ 掲 示 板 ”

■ 平成24年度三水会定期総会のご案内

下記により平成24年度三水会定期総会を開催します。

理事、代議員はもとより一般会員も傍聴できますのでご参加ください。

開催日時：平成24年5月19日（土）午後6時～（受付5時30分）

開催場所：北里大学白金キャンパス 薬学部1号館 5階 1507教室

（注）：開催場所は大学の都合により変更される場合がありますので、ご参加の方は事務局までご確認ください。

- 議 事：1、平成23年度事業報告及び収支決算報告
2、平成24年度事業計画及び収支予算
3、第12期三水会役員改選
4、その他

編集後記

東日本大震災から1年、三陸沿岸では瓦礫の撤去などが進み、ようやく復興へ向けてのスタートラインにつこうとしています。しかしながら、撤去した瓦礫の処理など益々問題はこれから大きくなることも予測されています。そのような中、三水会の皆さんの支援によって地元越喜来地区には「三陸港まつり」の開催、漁協への船の提供など卒業生の思いが形となって届けられました。今後も皆さんの思いを行動に移すことによって、東北の復興が成就するものと思います。まだ宿泊施設などは限られていますが、被災地を訪ねてみることもこれからは復興の一助となるかもしれません。震災の傷が癒えるまでには長い時間がかかるでしょう。皆様の良心にもとづく行動とアイデアを出し惜しみすることなく、東北へ、三陸へ送り続けていただきたいと思います。